

第35回「放送文化基金賞」

財団法人放送文化基金（理事長 河竹 登志夫）では、第35回放送文化基金賞を次のとおり（詳細別紙）決定しました。

1 番組部門————— 15番組、6件

- (1) テレビドキュメンタリー番組…………… 5番組
本賞—1 優秀賞—1 テレビドキュメンタリー番組賞—3
- (2) テレビドラマ番組…………… 4番組
本賞—1 優秀賞—1 テレビドラマ番組賞—2
- (3) テレビエンターテインメント番組…………… 3番組
本賞—1 優秀賞—1 テレビドラマ番組賞—1
- (4) ラジオ番組…………… 3番組
本賞—1 優秀賞—該当なし ラジオ番組賞—2
- (5) 個別分野賞…………… 6件
 - 「演技賞」—— 2件
 - 「企画賞」—— 1件
 - 「制作賞」—— 1件
 - 「映像賞」—— 1件
 - 「特別賞」—— 1件

2 個人・グループ部門————— 9件

- (1) 放送文化…………… 4件、特別賞1件
- (2) 放送技術…………… 4件

受賞番組、受賞者には、賞状、賞牌・トロフィー、賞金を贈呈します。

賞金は、番組部門・本賞—200万円、優秀賞—80万円、各番組賞—50万円、番組部門の個別分野賞—各20万円、個人・グループ部門—各50万円です。

なお、贈呈式は、平成21年6月26日(金) 午後4時30分から千代田放送会館ホール（東京都千代田区紀尾井町）で実施します。

お問い合わせ先 放送文化基金（担当 川副、安部）
東京都渋谷区宇田川町 41—1 共同ビル5F
TEL(03)3464—3131
<http://www.hbf.or.jp>

第35回「放送文化基金賞」受賞一覧

部 門		賞 (賞金)	受賞者	番組名・業績
番組部門	テレビドキュメンタリー番組	本賞 (200万円)	NHK福岡放送局	NHKスペシャル 解かれた封印 ～米軍カメラマンが見たNAGASAKI～
		優秀賞 (80万円)	NHK	ハイビジョン特集 ヤノマミ ～奥アマゾン 原初の森に生きる～
		(50万円)	NHK	NHKスペシャル 職業“詐欺”～増殖する若者犯罪グループ～
		テレビドキュメンタリー番組賞 (50万円)	NHK、NHKエンタープライズ、テムジン	ハイビジョン特集 “認罪”～中国 撫順戦犯管理所の6年～
		(50万円)	毎日放送	映像'08 家族の再生 ～ある児童養護施設の試み～
	テレビドラマ番組	本賞 (200万円)	フジテレビジョン	フジテレビ開局50周年記念ドラマ 風のガーデン
		優秀賞 (80万円)	NHK広島放送局	広島発 特集ドラマ 帽子
		(50万円)	NHK	特集ドラマ お買い物
		テレビドラマ番組賞 (50万円)	TBSテレビ	シリーズ激動の昭和 あゝ戦争は何だったのか 日米開戦と東条英機
	テレビエンターテインメント番組	本賞 (200万円)	NHK、ヴィジュアルフォークロア、NHKエンタープライズ	ハイビジョン特集 築地市場大百科
		優秀賞 (80万円)	中部日本放送	スジナシ ～第212回 田中圭～
		テレビエンターテインメント番組賞 (50万円)	毎日放送	～たむらけんじの学校に行こっ！～イマドキのセクション
	ラジオ番組	本賞 (200万円)	IBC岩手放送	震災被害を乗り越えて IBCラジオスペシャル 「希望のイワナ」
		優秀賞 (80万円)	該当なし	
		(50万円)	NHK	サウンドスケープ みなと三景音楽散歩 イヨコハマ湾岸ソウルフルワールド
		ラジオ番組賞 (50万円)	北日本放送	A列車に乗った男 ～原信夫、半生を語る～
	個別分野	演技賞 (20万円)	久米 明	「お買い物」の演技
		演技賞 (20万円)	渡辺 美佐子	「お買い物」の演技
		企画賞 (20万円)	大場 敦、弘 理子	「築地市場大百科」の企画
		制作賞 (20万円)	加藤 久智	「希望のイワナ」の制作
		映像賞 (20万円)	菅井 禎亮	「ヤノマミ」の映像
		特別賞	緒形 拳	「風のガーデン」「帽子」の演技
個人・グループ部門	放送文化	(50万円)	守分 寿男 (演出家・映像プロデューサー)	テレビ番組の優れた演出による放送文化への長年にわたる貢献
		(50万円)	長谷川 勝彦 (フリーアナウンサー)	NHKスペシャルをはじめとするドキュメンタリー番組のナレーション
		(50万円)	関 芳樹 (IBC岩手放送 ラジオセンター 専任部長)	地域に根ざした優れたラジオ・テレビドキュメンタリー番組の制作
		(50万円)	塩田 純 (NHK チーフ・プロデューサー)	テレビドキュメンタリー番組のプロデューサーとしてのめざましい活躍
		特別賞	筑紫 哲也 (ニュースキャスター)	長年にわたり「NEWS23」キャスターとして独自の視点でニュースと人々をつなげた功績
	放送技術	(50万円)	超低遅延放送素材伝送用コーデックおよび内蔵小型FPU開発チーム 代表 牧野 鉄雄 (日本テレビ放送網)	超低遅延放送素材伝送用コーデックおよび内蔵小型FPUの開発
		(50万円)	高機能マイクロホン開発グループ 代表 小野 一穂 (NHK)	高機能マイクロホンの開発
		(50万円)	西川 寛 (フジテレビジョン)	映像ダイナミックレンジ補正装置「D-Rex」の開発
		(50万円)	ミリ波ハイビジョンワイヤレスカメラ開発グループ 代表 池田 哲臣 (NHK)	高画質・低遅延ミリ波ハイビジョンワイヤレスカメラの開発

*番組部門の各番組賞と個人・グループ部門は、受付順による。

第35回 放送文化基金賞

「番組部門」

－ テレビドキュメンタリー番組 －

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗 概	選 考 理 由
NHKスペシャル 解かれた封印 ～米軍カメラマンが 見たNAGASAKI～ 平成 20.8. 7 (木) NHK福岡放送局	語り 柴田祐規子 撮影 俣野 周作 照明 富田 弘之 音声 森嶋 隆 編集 伊藤 康弘 音響効果 小野さおり ディレクター 松本 卓臣 制作 田中 剛志 出演 ジョー・オ ダネル(故人) タイグ・オ ダネル ノーマン・ ハッチ 谷口 稜暉	被爆直後の長崎を象徴する一枚の写真がある。死んだ弟を背負い、火葬場に直立する少年。この写真を撮影したジョー・オダネルの心の軌跡をたどる。 被爆直後の長崎では、米軍の許可なく日本人を撮影することは、禁止されていた。海兵隊の写真記録班だったオダネルは、密かに、被爆した人達の写真を撮る。しかし、原爆の悲惨な記憶とともに、その写真は封印される。43 年後、偶然、被爆者の写真を張りつけた彫像を見たのをきっかけに、オダネルは、その封印を解く。原爆の真実を伝えようと写真展を開くが、原爆投下を正当化するアメリカでは、理解を得られない。嫌がらせの手紙や批判の投書が殺到し、妻も離婚して去っていく。それでも、オダネルは、原爆投下の意味を問い続けた。85 歳で死去したが、最後まで、アメリカもいつかは変わると信じていた。	原爆投下をアメリカ側から問う番組内容に新しい視点がある。 核使用に道義的責任があるとしたオバマ大統領の発言を先取りした作品ともなっており、今日性がある。 少年の写真は、子供たちを巻き込む原爆の無慈悲さを象徴しており、自らの人生を語ったオダネルの証言とあわせ、ドキュメンタリーとして貴重な記録となっている。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗 概	選 考 理 由
ハイビジョン特集 ヤノマミ ～奥アマゾン 原初の森に生きる～ 平成 21.2.26 (木) NHK	語り 田中 泯 音声照明 下垣 圭三 音声技術 緒形慎一郎 音響効果 塩田 貢 編集 三澤恵美子 取材・撮影 太田 一生 ディレクター 菅井 禎亮 制作統括 国分 拓 山本 篤	アマゾンの最深部に 1 万年以上、独自の文化、風習を守り続けている部族がいる。ヤノマミ族だ。彼らは、40～200 人でひとつの集団を作っている。“ヤノマミ”とは“人間”という意味だ。彼らは、彼ら以外の者を“ナブ”と呼び区別する。“ナブ”とは“ヤノマミ以外の人間”あるいは“人間以下の者”。 取材班は 10 年近い交渉の末、ワトキリ（風の地）と呼ばれる集落に 150 日間、彼らと同居し撮影した。森の中の女だけの出産、胎盤を森に吊るす儀礼、集団でのサル狩り、深夜突然始まる男女の踊り、大らかな性、白蟻に食べさせることで天に送る埋葬。森で産まれ、森を食べ、森に食べられる。そんな彼らの暮らしの中で、人間を深く見つめた。	人間の生と死を原点に返って考えさせる作品。 単なる秘境探訪モノではなく、優れた文明批評ともなっている。 取材対象者との信頼関係が、深い取材を可能にしており、記録するというドキュメンタリーの役割を果たした作品でもある。

テレビドキュメンタリー番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗概	選考理由
NHKスペシャル 職業“詐欺” ～増殖する若者犯罪 グループ～ 平成 21.2.9 (月) NHK	チーフ・プロデューサー 社会部デスク 記者 ディレクター 撮影 編集 音声 音響効果 ナレーション 出演 高山 仁 中島 太一 海老原 史 板倉 弘政 木村 真也 清水 将裕 三石 泰行 横井 秀信 青木 直也 山口 雅史 中村 真之 小野さおり 時任 三郎 被害にあった夫婦 振り込め詐欺グループ	厳しい取締りにもかかわらず、一向に減らない振り込め詐欺グループと接触、その犯人像に迫る。詐欺グループは、ほとんどが 20 代の若者たち。有名大学や一流企業の出身者も多い。詐欺を「仕事」、実行犯を「従業員」と呼び、知人を“高給”でスカウトして組織化を進める。「騙される方がバカ」と悪びれず、マンションや外車を購入し、「金こそ全て」の生活を送る。人を騙すことに罪の意識を感じない若者達を通じて、金儲けが優先される今の社会の病んだ側面を浮き彫りにする。	詐欺グループに象徴される現代の若者の荒廃した精神状況を浮き彫りにした作品。 振り込め詐欺を生む背景と構造を徹底した取材で明らかにしており、番組を通じて現代社会が抱える闇が見えてくる。 取材の難しい加害者側に肉薄したドキュメンタリーとしても評価できる。
ハイビジョン特集 “認罪” ～中国 撫順戦犯管理所の 6 年～ 平成 20.11.30 (日) NHK NHKエンタープライズ テムジン	企画 ディレクター 制作統括 撮影 音声 映像技術 編集 音響効果 取材 ナレーション 出演 北川 恵 中村 豊 堤 啓介 大門 博也 矢島 良彰 毛利 立夫 小口 修一 亀山 年弘 丸山 博充 角田丈太郎 藪下 一也 河原久美子 内山 直樹 高橋 美鈴 元撫順戦犯管理所日本人収容者 元撫順戦犯管理所職員	1950 年、シベリアから日本人捕虜 969 名が中国に移送された。彼らは、戦犯として撫順戦犯管理所に収容される。 中国側の扱いは実に寛大だったが、まもなく、戦時中に犯した罪を認める、“認罪”を求められる。社会主義教育に始まり、後悔を促す教育。強制的ではなかったが、罪を認め、告白することが高く評価された。認めるべきか、否認するべきか。収容所の中は疑心暗鬼となる。結局、戦犯として起訴されたのは、ごく一部だった。その裏には、日本との関係正常化を図ろうとする周恩来の国際戦略があった。	戦後の日中関係を戦犯がたどった運命を通じて詳細に描いた優れたドキュメンタリー。 政治が一個人の人生を左右する残酷さが伝わってくる。 日本人だけでなく、当時の中国側の職員にも取材し、さまざまな角度から証言を集め、“認罪”の意味と全体像を明らかにした。
映像'08 家族の再生 ～ある児童養護施設の試み～ 平成 20.4.21 (月) 毎日放送	プロデューサー ディレクター カメラ 編集 ナレーター 出演 里見 繁 米田 佳史 原 淳二 山内 博貴 藤田千代美 桑原 教修	京都府の児童養護施設・舞鶴学園では、幼児から高校生まで約 10 人が 1 つの建物で職員と寝起きを共にする小舎制を導入している。家族との暮らしを経験していない子どもたちに“家庭”を実感してもらうのがねらいだ。親の離婚、病気、虐待など様々な理由で親と暮らせない子どもたちが 6 つの家に分かれて暮らしている。 番組では、乳児院からやってきた 1 組の兄弟と、17 年間生活した学園を巣立つ女子高生を中心に、施設の日常を 8 か月にわたって追い、今の社会と家族のありかたについて考える。	今の日本社会と“家族”のあり方を深く考えさせられる優れたドキュメンタリー。 子どもの素直な反応、園長や職員の温かい人柄や考えが胸を打ち、取材姿勢の誠実さが伝わってくる。

第35回 放送文化基金賞
「番組部門」
－ テレビドラマ番組 －

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗 概	選 考 理 由
フジテレビ開局 50 周年記念ドラマ 風のガーデン 平成 20.10.9 (木) ～ 12.18 (木) 〈全 11 回〉 応募は、第 1 回 フジテレビジョン	原作・脚本 倉本 聰 総括プロデュース 中村 敏夫 プロデュース 若松 央樹 浅野 澄美 演出 宮本理江子 出演 中井 貴一 黒木メイサ 神木隆之介 平原 綾香 伊藤 蘭 奥田 瑛二 緒形 拳 ほか	高林医大准教授の白鳥貞美(中井貴一)は、45 歳。麻酔学界の権威で、緊急手術や大手術には欠かせない。ジョークが得意で若い恋人もいる。しかし、背中と腹部を突然、激しい痛みが襲う。がんだ。死の影がよぎる中で、久しく会っていない家族への思いが強まる。北海道・富良野の風のガーデン。ここで、父の貞三(緒形拳)と娘のルイ、息子の岳が暮らしている。ルイは、ガーデニングとよさこいソーラン祭り、そして不倫の恋に夢中。岳は、知的障害を抱えている。実は、貞美は、妻の死がきっかけで、父に勘当されている。 ドラマは、近代的な設備が整った東京の大学病院と北海道・富良野の美しい自然を舞台に進行する。主人公は、人生の盛りに死に直面し、初めて、家族の大切さを知る。故郷に咲く 400 種類もの花々が、風に揺れてその事を教えてくれる。	脚本、演出、配役とも素晴らしく、完成度の高いドラマとなった。 応募作品は、第 1 回放送分だが、主役の麻酔科医を紹介する手術シーンは、迫真のリアリティがあり、ユーモアをまじえた中井貴一の演技も見事。 2 年がかりで造成されたイングリッシュ・ガーデンの美しさも特筆される。 全体に、時間をかけて、丁寧に作られており、作品に対する制作者の深い愛が感じられる。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗 概	選 考 理 由
広島発 特集ドラマ 帽子 平成 20.8.2 (土) NHK広島放送局	脚本 池端 俊策 制作統括 湯澤 克彦 城谷 厚司 演出 黒崎 博 音響効果 加藤 直正 編集 阿部 格 技術 大塚 豊 美術 土手内賢一 出演 緒形 拳 玉山 鉄二 岸部 一徳 山本 晋也 山本 龍二 北見 敏之 高橋 克明 岩田 丸 牟田 悌三 笠原 秀幸 朝倉 あき 田中 裕子 ほか	広島県呉に、山本五十六の軍帽を作った帽子店がある。その誇りを受け継ぎ、学生帽を作り続けてきた高山春平(緒形拳)は、最近、物忘れがひどい。何かと警備員の河原吾朗(玉山鉄二)を呼びつけては、寂しさをまぎらしている。春平はある日、吾朗の母親が幼なじみの世津で、今東京で、がんの末期にあると知る。胎内被爆で体が弱かった世津の兄のような存在だった自分。しかし、世津は、就職のため呉を出て行き、その後、会うこともなかった。世津が死を前にしていると知り、春平は吾朗を連れて東京に行く。意外にも幸せそうに暮らしていた世津。世津は、春平に小さな水兵帽を見せる。辛い時、世津を支えてくれたのは、春平がくれたこの帽子だった。	誇りをもって生きる大切さを、老職人を通じて描いた心にしみる作品。 庶民の日常を描きながら、戦争や被爆といったテーマもさりげなく配し、陰影のあるドラマに仕上げた脚本がすばらしい。 最後の主演作となった緒形拳の表情豊かな演技が、心を打つ。

テレビドラマ番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗概	選考理由
特集ドラマ お買い物 平成 21.2.14 (土) NHK	制作統括 遠藤 理史 演出 中島 由貴 作 前田 司郎 音楽 BANANA 出演 久米 明 渡辺美佐子 市川実日子 ほか	福島農村で暮らすおじいさん(久米明)と、おばあさん(渡辺美佐子)の元に、東京で開かれる高級スチールカメラの見本市の案内が届く。カメラが趣味だったおじいさんは、一念発起して、20年ぶりに東京へ行こうと言い始める。猛反対だったおばあさんも、おじいさんの強引さに負けて、一緒に上京することになる。初めて見るお財布携帯の改札。喫茶店のシステムも変わっている。2人は、時の流れを痛感する。かつては在り、今は失われたものもある。そして老夫婦は20年前の東京駅のある光景を思い出す。	主役の二人の自然でしかもユーモアにあふれた演技が秀逸。こんな老人たちが実際にいて、どこかで生きているのかもしれないと思わせるリアルさを感じさせる。 老夫婦の絶妙なやりとりを通じて、「時の流れ」が浮かび上がる脚本も高く評価される。
シリーズ激動の昭和 あの戦争は何だったのか 日米開戦と東条英機 平成 20.12.24 (水) TBSテレビ	脚本 池端 俊策 原作 保阪 正康 演出 鴨下 信一 プロデューサー 八木 康夫 技術 那須田 淳 美術 小南 朗 出演 石田 道昭 ビートたけし 阿部 寛 野村 萬斎 橋爪 功 風間 杜夫 高橋 克典 檀 れい 市川團十郎 西田 敏行 ほか	真珠湾攻撃の直前、昭和16年の日本は、外交か戦争かのぎりぎりの判断を迫られていた。東条英機(ビートたけし)は、当初、陸軍大臣として、強硬に対米開戦を主張し、首相の近衛文麿と対立していた。近衛は、何とか戦争を回避しようとするが、統帥権を掲げる軍部の壁に阻まれ、総辞職する。後を継いだのは、東条だった。ドラマは、9月6日の御前会議から、開戦を事実上決定した11月1日の大本営連絡会議までの2か月ほどの東条の動きを通じて、あの戦争は何だったのか、誰に責任があるのかを描く。	日米開戦にいたる指導部の対立、葛藤を東条英機を主人公にしてドラマで描いた意欲作。 語り部に徳富蘇峰を登場させ、知識人と戦争との関わりを指摘する構成にしたところに、現代に通ずる鋭い視点がある。 昭和史を描くこのシリーズは、ジャーナリズムとしてのテレビドラマの役割を追求しており、期待したい。

第35回 放送文化基金賞

「番組部門」

－ テレビエンターテインメント番組 －

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗 概	選 考 理 由
ハイビジョン特集 築地市場大百科 平成 20.9.7(日) NHK ヴィジュアルウォーク NHKエンタープライズ	ディレクター 弘 理子 撮影 高橋 慎二 音響効果 金田 智子 CG制作 山田みどり 編集 橋本 恵久 プロデューサー 北村 皆雄 制作統括 松居 径 企画・制作 大塚 敦 統括 市川團十郎 出演 飯田 統規 モデル・バスター 山口 幸隆 藤森 照信 刑部 裕之	世界最大と言われる東京築地市場をAからZまで 26 項目に分けて描く。Aは Auction＝セリ、セリでは、1本のマグロがわずか6秒でセリ落とされる。その裏側には、仲買人同士の熾烈な駆け引きがある。その詳細は、Fight＝競合の項目で紹介される。 築地市場には、780 軒の中卸がひしめき、一日に 2000 トンの海産物が売りさばかれる。長さ 2.4 mの卸包丁を使ったマグロの解体。貝むきだけで 45 年の女性が見せる一瞬の早業。職人の技と工夫がハイスピードカメラなどを駆使し、次々と紹介される。築地で働く人たちの笑顔は自信にあふれている。築地は、外国人観光客にも人気スポット。カナダ人観光客は、「築地には、秩序ある混沌がある。」と言う。 築地の複雑かつ重層的な世界を多角的に描き、楽しみながら築地を知ることのできる「大百科」。	さまざまな映像や音を駆使して、築地を分かりやすく、かつ楽しく紹介しようという工夫がこらされており、見る側にとって、とても心地よいエンターテインメント番組となった。 築地の意外と知られていない情報やエピソードにあふれている番組。知る楽しみが即ちエンターテインメントであり、本賞にふさわしい作品と評価された。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗 概	選 考 理 由
スジナシ ～第 212 回 田中圭～ 平成 20.10.19 (日) 中部日本放送	制作 伊藤 司 演出 鎌田 耕次 小森耕太郎 技術 江口 彰吾 美術 岡本 年尾 音響効果 大沼 賢一 出演 笑福亭鶴瓶 田中 圭 丹野みどり (ナレーター)	笑福亭鶴瓶とゲストが簡単な設定だけをもとに、ぶっつけ本番で即興ドラマを演じる番組。台本無し、打ち合わせ無しで、本番がスタートする。 第 212 回のゲストは俳優の田中圭。この回は、台所のセットが用意され、人物設定がわからないふたりは、探りあいながらドラマをつくりあげていく。ふたりのやりとりが思いがけない展開となっていくのが笑いを誘う。 即興ドラマ番組をつくったあとは、すぐに別のスタジオにうつり、笑福亭鶴瓶とゲストで撮り終えたドラマを見ながら、演じていた時の気持ちなどを語りあう。	ぶっつけ本番の緊張感がテレビの持つ同時性の魅力を引き出している。 スタジオで、笑福亭鶴瓶がゲストと一緒にドラマを検証するコーナーは、本番部分の緊張感と落差があり、文句なく楽しめる。 字幕のひとつひとつにもセンスがあり、制作者の力量がうかがえる。

テレビエンターテインメント番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗概	選考理由
～たむらけんじの学校に行こッ！～イマドキのセクション 平成 20.5.31（土） 毎日放送	プロデューサー 田渕 伸一 企画 水野 雅之 演出 山内健太郎 出演 末吉 明人 出演 たむらけんじ	お笑い芸人・たむらけんじ(33歳)が大阪の高校生を教室や部活動の場に訪ねる。ホームルーム中のクラスで彼らは得意技のダンスや剣玉技を紹介する。時には悩み事の相談ももちかける。水泳部の生徒から水球を教わるたむけんの姿がある。登場するのは隣近所の息子さんや娘さんばかり。彼らの素顔が、笑いが画面いっぱいに映し出される。月～金曜日まで、毎日3時間生放送の情報番組『ちちんぷいぷい』のなかで2年前からの好評企画を60分に凝縮。イマドキのセクションの姿に視聴者は、熱い気持ちで過ごしたあの時代をそっと重ね合わせる。	教育の荒廃やいじめばかりが言われる中で、生き生きとした今の高校生の素顔が伝わってくる楽しい作品。 関西という地で培ってきた放送と視聴者の関係が築きあげた豊かな空間を感じさせる番組と評価された。

第35回 放送文化基金賞

「番組部門」

－ ラジオ番組 －

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗 概	選 考 理 由
震災被害を乗り越えて IBCラジオスペシャル 「希望のイワナ」 平成 20.12.21 (日) I B C 岩手放送	企画・制作・現地収録・演出 加藤 久智 風見 好栄 佐藤陸三郎 佐藤恵美子 佐藤 寿喜 佐藤カツ江	岩手県一関市巖美町市野々原地区に住む佐藤陸三郎さん（78歳）は、人生の大半をイワナとともに過ごしてきた。若い時は、イワナを釣って旅館に売る「職漁師」。その後、養殖に乗り出し、苦勞の末、今では、2万匹のイワナを養殖している。その陸三郎さんをマグニチュード 7.2 の岩手・宮城内陸地震が直撃する。山が一気に崩れ、道路は寸断。市野々原地区は孤立する。避難すれば、餌をもらえないイワナは死ぬしかない。悩んだ末、水槽の仕切り板をはずしてイワナを放すことにした。イワナを失った喪失感に打ちのめされた陸三郎さんを家族が励ます。震災から2か月たって、ようやく養殖を再開。水路に水を通した時、奇跡が起きる。放したイワナが堰板を飛び越えて、養魚場に戻ってきたのだ。陸三郎さんに生きる力を与える、まさに“希望のイワナ”だった。	災害に巻き込まれ、再起するまでを1人の人間の人生と重ねあわせて構成した良質のドキュメンタリー作品。 インタビューに答える陸三郎さんの言葉が素朴で親しみやすく、イワナにかける思いが生き生きと伝わってくる。 インタビュー現場の説明が丁寧に行なわれており、ラジオを意識した制作姿勢も評価できる。

ラジオ番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗 概	選 考 理 由
サウンドスケープ みなと三景音楽散歩 ィヨコハマ湾岸ソウルフルワールド 平成 21.1.1 (木) NHK	制作統括 技術 ディレクター 出演 加藤 直正 久野 裕大 小野寺茂樹 crazyken a.k.a. 横山剣	開港 150 周年を迎えた横浜にゆかりの音楽と臨場感あふれる音で紡ぐ FM サウンド紀行。 1 月 1 日カウントダウンとともに爆竹が鳴り、中華街にドラの音が響く。中華街から潮の香りに誘われて歩いて行くと波の音が聞こえる。そこは山下公園。夏のみなとみらいでは花火が打ち上がり、野毛では路上ライブを見ることができる。そんな港街“ヨコハマ”を横浜で生まれ育ったクレイジーケンバンドの横山剣の軽妙なトークと矢沢永吉の「CHINATOWN」、平山三紀の「ビューティフル・ヨコハマ」などの曲を織り交ぜながら巡る。	徹底して音にこだわり、音で“ヨコハマ”を表現するのに成功している。 番組で使われている環境音は、聞く者の想像力を刺激するリアリティをもっており、番組を制作した音響デザイン部の専門性が発揮されている。 横山剣の軽妙な語りもテンポが良く、心地よい。

ラジオ番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗概	選考理由
A列車に乗った男 ～原信夫、半生を語る～ 平成 20.11.29 (土) 北日本放送	効果 玉井 和雄 編集 柴田 明夫 演出 松本芽久美 企画・ナレーション 相本 芳彦 出演 原 信夫 シャープス &フラッツ 塚原 愛子 瀬川 昌久 室井 滋	戦後日本のジャズ界をリードしてきた原信夫がバンドの解散を前に、自らの半生を語る。 17歳で海軍軍楽隊に入るが、まもなく終戦。初めて耳にしたジャズは斬新で、瞬く間にのめり込む。昭和 26 年、シャープス & フラッツを結成。妻の愛子はバンドの初代ピアニストだ。当時ジャズは不良音楽。原はジャズの音楽性を高め、その地位をあげるため努力する。故郷富山で行なわれたファイナルコンサートや“ A列車で行こう”など数々のジャズミュージックの名曲とともに、彼が駆け抜けた戦後の昭和史を振り返る。	原信夫の語りをうまく取り入れて、日本のビッグバンドジャズ史をたどる構成が秀逸。 華やかな面だけでなく、若い時の苦労なども率直に語っており、ジャズから見た日本の戦後史が浮かび上がってくる。

第35回放送文化基金賞

「番組部門」－個別分野－

演技賞

受賞者	対象番組	選考理由等
くめ あきら 久米 明	お買い物 (NHK) テレビドラマ番組	老人役を自然体で演じ、夫婦の会話では、絶妙のユーモアを醸し出していた。ちょっとしたしぐさや表情にも人間性をにじませ、演技を超えた強い説得力がある。

演技賞

わたなべ みさこ 渡辺 美佐子	お買い物 (NHK) テレビドラマ番組	演技力の深さは、そのままこの女優の人間性の深さを感じさせる。渡辺演じるおばあちゃんの愛らしさが、この作品に心温まる視点を与えた。
--------------------	-------------------------------	--

企画賞

おおがき あつし ひろ りこ 大場 敦、弘 理子	築地市場大百科 (NHK/ウイジュアルウォークロア /NHKエンタープライズ) テレビエンターテインメント番組	築地の知られざる素顔とエピソードを26項目の大百科として”分かりやすくかつ楽しく”構成した企画力を評価する。
-----------------------------	--	--

制作賞

かとう ひさとし 加藤 久智	希望のイワナ (IBC岩手放送) ラジオ番組	企画、インタビュー、制作までひとりで担当し、震災のかげにある人間ドラマを見事に描き出した。
-------------------	----------------------------------	---

映像賞

すがい よしあき 菅井 禎亮	ヤノマミ ～奥アマゾン 原初の森に生きる (NHK) テレビドキュメンタリー番組	ヤノマミ族と150日間同居し、人間の根源を考えさせる原初の暮らしを取材、映像化した。
-------------------	---	--

特別賞

おがた けん 緒形 拳	風のガーデン (フジテレビジョン) 帽子 (NHK広島放送局) テレビドラマ番組	テレビドラマの遺作となった「風のガーデン」、最後の主演作品である「帽子」の両作品とも、生きることに対する誇りを視る者に強く訴えてくる演技で高く評価される。
----------------	--	---

第35回放送文化基金賞
「個人・グループ部門」
－放送文化－

受賞者	業績	業績内容・選考理由
もりわけ としお 守分 寿男 (演出家・映像プロデューサー)	テレビ番組の優れた演出による放送文化への長年にわたる貢献	東芝日曜劇場などで地方の風土に根ざした優れたテレビドラマを全国に発信し続け、北海道放送を退職後も舞台の演出家、映像プロデューサーとして新境地に挑戦している。テレビ草創期からビデオカメラを駆使した斬新な手法のドラマを制作し、昨年は、『いのちの記憶－小林多喜二・二十九年の人生』を制作、優れた評伝映像としての評価を得るなど、今もなお放送文化の向上に多大な貢献をしている。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
はせがわ かつひこ 長谷川 勝彦 (フリーアナウンサー)	NHKスペシャルをはじめとするドキュメンタリー番組のナレーション	1966年、アナウンサーとしてNHKに入局し、シリーズ『ドキュメント太平洋戦争』『黄土の民はいま』など数々のナレーションを担当、朗読の第一人者と言われた。98年に退職後もフリーアナウンサーとして活躍、『日中戦争』『硫黄島玉砕』等を担当、昨年は『果てなき消耗戦・レイテ決戦』『戦場・心の傷』『シリーズBC級戦犯』シリーズ『揺れる大国・プーチンのロシア』などを手掛けた。豊富な経験に基づく高度なアナウンス技術で見る者の心に言葉を届け、番組制作を支え続けてきた功績は大きい。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
せき よしき 関 芳樹 (IBC岩手放送ラジオセンター専任部長)	地域に根ざした優れたラジオ・テレビドキュメンタリー番組の制作	1975年岩手放送入社。ラジオとテレビの制作ディレクターとして、『生きていた“同胞”の心』(第19回放送文化基金賞企画賞)、『音なき世界からのメッセージ』(第22回放送文化基金賞ラジオ番組賞)、『秘謡＜氷口御祝＞を唄い継ぐ中学生たち』(第33回放送文化基金賞ラジオ番組本賞・制作賞)など、地域に根ざすテーマを、普遍的な視点をもって丹念に描いてきた。地方局で長年地域文化に貢献している一途な制作者として高く評価する。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
しおだ じゅん 塩田 純 (NHKチーフ・プロデューサー)	テレビドキュメンタリー番組のプロデューサーとしてのめざましい活躍	1983年NHKに入局。『東京裁判への道』(第19回放送文化基金賞本賞)などのドキュメンタリー番組を制作し、受賞も多数。近年は、プロデューサーとして、多くのディレクターが暖めている企画を発掘、問題の核心を指摘し、取材の方向を示唆。構成と編集にも深く関わることで、映像化が難しいテーマを番組化し、多様で質の高い作品を放送してきたことを高く評価する。2008年も、『果てなき消耗戦 証言記録レイテ決戦』など多数の優れた番組の制作を担当し、その力量を発揮した。

【特別賞】

受賞者	業績	業績内容・選考理由
あぐし てつや 筑紫 哲也 (ニュースキャスター)	長年にわたり「NEWS23」キャスターとして独自の視点でニュースと人々をつなげた功績	1989年、TBS系列『筑紫哲也 NEWS23』のキャスターに就任以来、常にジャーナリストとしての独自の視点を持ち、「多事争論」のコラムコーナーや各国首脳と市民のスタジオ直接対話など数々の斬新な試みでニュースと人々をつなげてきた。2007年、肺がんの治療のため番組を降板、08年7月、参院選開票特番に声だけで出演、8月、哲学者・梅原猛との対談で出演するなど最後まで活躍し、11月7日に永眠した。その功績を称え、特別賞を贈呈する。

第35回放送文化基金賞
「個人・グループ部門」
－ 放送技術 －

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
超低遅延放送素材伝送用コーデックおよび内蔵小型FPU開発チーム 代表 牧野 鉄雄 (日本テレビ放送網)	超低遅延放送素材伝送用コーデックおよび内蔵小型FPUの開発	従来のコーデック技術では、60～300msecの遅延時間が発生するため、ワイヤレスカメラや情報カメラの操作において運用上の障害となっていた。そこで、遠隔医療などで使用されている方式を利用し、放送局の求める画質・動作安定度性を満たしつつ、HDの映像伝送においても10msecという超低遅延を実現する放送素材伝送用コーデックおよび本エンコーダを内蔵した小型FPUを開発して製品化し、ゴルフや天気カメラなど野外中継に使用している。

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
高機能マイクロホン開発グループ 代表 小野 一穂 (NHK)	高機能マイクロホンの開発	音楽收音用超広帯域マイクロホン、および後方の感度抑制に優れた狭指向性マイクロホンを開発した。前者は記録・伝送機器の高帯域化に対応し、高いS/N比と周波数100kHzまでの広帯域性を両立した世界初のもので、放送素材の高品質アーカイブスや広帯域メディアへの2次利用を可能にした。後者は、スポーツ中継等で直面するマイク後方の雑音を新しい原理により制御可能とし、スポーツ番組等多数の番組で使用されている。

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
西川 寛 (フジテレビジョン)	映像ダイナミックレンジ補正装置「D-Rex」の開発	これまでのダイナミックレンジ補正では非線形カーブを映像全体に一律に適用させるため、階調が失われたり、色の濃さに影響を及ぼした。そこで、画素単位でカーブを適用して輝度レベルを最適化することにより、明部の階調を保持したまま、ノイズの発生を抑えながら暗部を持ち上げる、映像ダイナミックレンジ補正装置を開発した。これにより逆光など明暗のコントラストが大きな撮影環境における番組制作の自由度を向上させた。

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
ミリ波ハイビジョンワイヤレスカメラ開発グループ 代表 池田 哲臣 (NHK)	高画質・低遅延ミリ波ハイビジョンワイヤレスカメラの開発	従来のハイビジョンワイヤレスカメラは0.5秒程度の遅延があり、マルチカメラを前提とするスタジオ用途では運用上の制約があった。開発したワイヤレスカメラは42GHz帯または55GHz帯を用い、ミリ波の広帯域性とMIMO技術を用いることで、従来比7倍の伝送容量(160Mbps)と1/15の遅延時間(33ms)を達成し、スタジオ用途にも使用可能となった。本ワイヤレスカメラは、今年の紅白歌合戦で使用され、ケーブルレスによる機動性を大いに発揮した。